

# 「□を使った式」の文章問題の 考え方とやり方をわかりやすく解説

## 「□を使った式」たし算の式をつくる

「□を使った式」とは、どういうことかということ、「わからない数」を□にして式を作るということだよ。

たとえば、次の文を見てみよう。

けんたくんは、きのうカードを16まい買いました。今日、また何まいか買うと、全部で27まいになりました。

この文には「わからない数」があるよね。

そう、「今日買ったカードのまい数」がわからないよね。

この、「わからない数」である「今日買ったカードのまい数」を「□まい」として式を作るんだ。

これが、「□を使った式」だよ。

それでは、さっそくこの文章の「わからない数」を□にして式を作ってみよう。

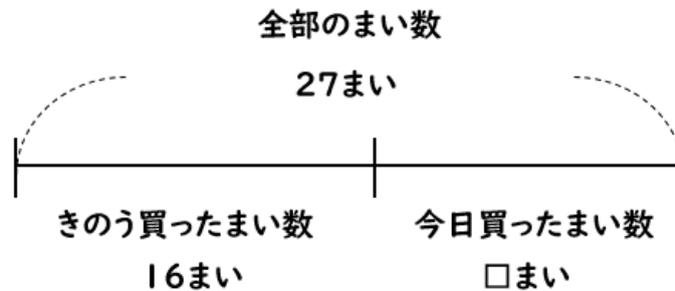
ポイントは、それぞれの数の「かんけい」にちゅうもくすること。

この文章にどうしようする数は、

「きのう買ったまい数(16)」「今日買ったまい数(□)」「全部のまい数(27)」だよ。



この3つの数のかんけいは、次のようになっているんだ。



「きのう買ったまい数」と「今日買ったまい数」をたしたものが「全部のまい数」だね。

ということは、このかんけいどおりに式を作ると

$$16 + \square = 27$$

という式ができあがるよ。

わからない数を□を使って式をつくると、文の通りに式を作ることができるんだ。

□ってとてもべんりだね。

せっかく式を作ることができたので、□に入る数をもとめてみよう。

もとめ方①

$16 + \square = 27$ ということは、「16に□をたすと27になる」ので、ぎゃくに考えると「27から16をひくと、□になる」ということだよ。

だから、

$$27 - 16 = \square$$

という式になるよ。



あとは  $27 - 16$  をすればいいね。

$$27 - 16 = 11$$

□ は 11 だとわかるね。

答え：11まい

もとめ方②

「 $16 + \square = 27$ 」の式の□に あてはまる数をじゅんばんに考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12…というように、□に数をじゅんばんに入れていくと、11のとき、ちょうど27になることがわかるね。

$$16 + \square = 27$$

$$16 + \boxed{9} = 27 \quad \times$$

$$16 + \boxed{10} = 27 \quad \times$$

$$16 + \boxed{11} = 27 \quad \circ$$

だから、□にあてはまるのは11だということがわかるよ。

答え：11まい

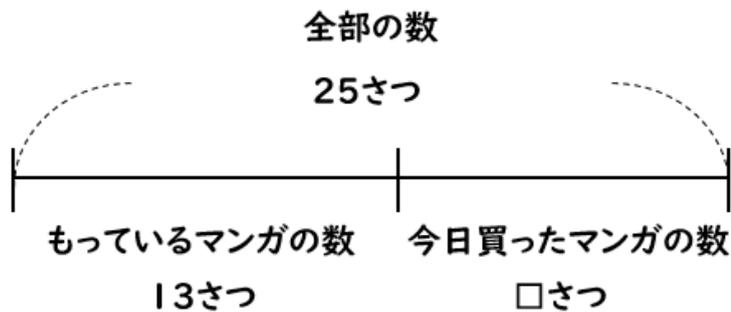


けんたくんは、マンガを13さつもっています。  
 今日何さつか買ったので、全部で25さつになりました。

今日買ったマンガの数をもとめましょう。

この問題で「わからない数」は、「今日買ったマンガの数」だよね。  
 だから、「今日買ったマンガの数」を「□さつ」として式を作るよ。

「もっているマンガの数」と「今日買ったマンガの数」をたしたら「25さつ」になるから、



文のとおりにより式を作ると  
 $13 + \square = 25$  という式ができあがるよ。

□に入る数をもとめよう。

もとめ方①

$13 + \square = 25$  ということは、  
 $25 - 13 = \square$  という式になるから、  
 □は12だとわかるね。

答え：12さつ



もとめ方②

13 + □ = 25 の式の □ に あてはまる数を考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12…と

□に入れていくと

12 のとき、ちょうど 25 になるよね。

$$13 + \square = 25$$

$$13 + \boxed{10} = 25 \quad \times$$

$$13 + \boxed{11} = 25 \quad \times$$

$$13 + \boxed{12} = 25 \quad \circ$$

だから、□ は 12 ともとめることができるよ。

答え：12 さつ

「□を使った式」ひき算の式をつくる

たろうくんは、カードを 30 まいもっています。今日、けんたくんに何まいかあげたので、カードは全部で 21 まいになりました。

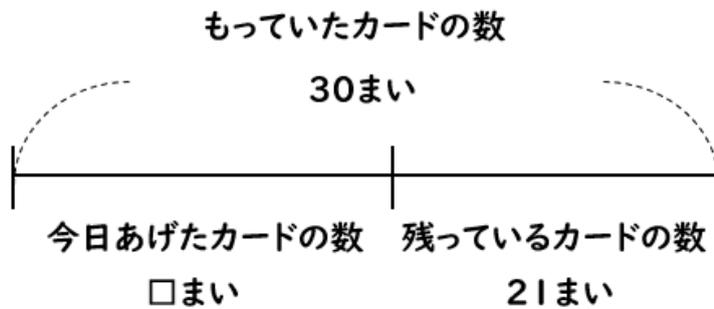
けんたくんに何まいあげたでしょうか。

この問題で「わからない数」は、「けんたくんにあげたカードのまい数」だよね。

だから、「けんたくんにあげたカードのまい数」を「□まい」として式を作るよ。



「もっていたカードの数」から「あげたカードの数」をひいたら「残り21まい」になるから、



文のとおりになしを作ると

$30 - \square = 21$  という式ができてあがるよ。

ひき算でも、

わからない数を□を使って式をつくと、文の通りに式を作ることができるよね。

□に入る数をもとめよう。

もとめ方①

$30 - \square = 21$  ということは、

$30 - 21 = \square$  という式になるから、

□は9だとわかるね。

答え：9まい



もとめ方②

30 - □ = 21 の式の□に あてはまる数を考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10…と

□に入れていくと

9 のとき、ちょうど21になるよね。

$$30 - \square = 21$$

$$30 - \boxed{7} = 21 \quad \times$$

$$30 - \boxed{8} = 21 \quad \times$$

$$30 - \boxed{9} = 21 \quad \circ$$

だから、9と、もとめることができるよ。

答え：9まい

もうひとつ問題を見てみよう。

同じひき算なんだけれど、□の場所がちがうんだ。

じろうくんは、カードを何まいかもっています。今日さぶろうくんに12まいあげたので、残りは全部で20まいになりました。

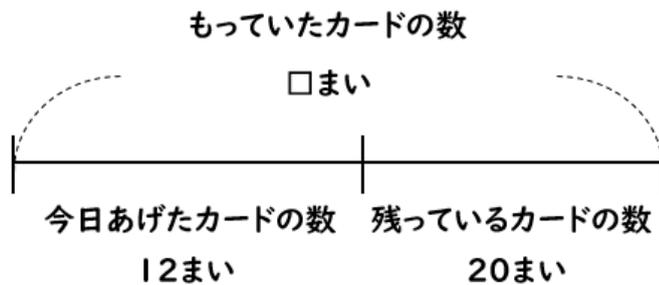
じろうくんは、カードを何まいもっていたのでしょうか。

この問題で「わからない数」は、「じろうくんがもっていたカードのまい数」だよね。

だから、「もっていたカードの数」を「□まい」として式を作るよ。



「もっていたカードの数」から「今日あげたカードの数」をひいたら「残り20まい」になるから、



文のとおりになしを作ると

□ - 12 = 20 という式ができてあがるよ。

□に入る数をもとめよう。

もとめ方①

□ - 12 = 20 ということは、

20 + 12 = □ になるから、

□ は 32 だとわかるね。

答え：32まい



## もとめ方②

さっきの式の□にあてはまる数を考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10・・・

30、31、32と□に入れていくと

32のとき、ちょうど12になるよね。

$$\square - 12 = 20$$

$$30 - 12 = 20 \quad \times$$

$$31 - 12 = 20 \quad \times$$

$$32 - 12 = 20 \quad \circ$$

だから、32ともとめることができるね。

答え：32まい

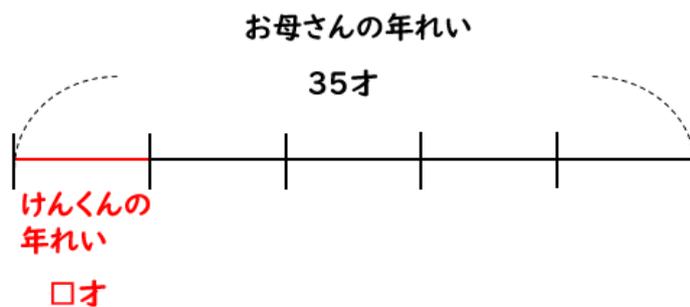


## 「□を使った式」 かけ算の式をつくる

お母さんの年れいは、けんくんの年れいの5倍で35才です。  
けんくんは何才ですか。

この問題で「わからない数」は、「けんくんの年れい」だよ。だから、「けんくんの年れい」を「□才」として式を作るよ。

「けんくんの年れい」を5倍したら、「お母さんの年れい」になるから



文のとおりには式を作ると

$\square \times 5 = 35$  という式ができあがるよ。

あとは、□に入る数をもとめることができればOK。

もとめ方①

35を5等分した1つ分が  
「けんくんの年れい」だから、  
 $35 \div 5 = 7$  で  
7才だとわかるね。



もとめ方②

$\square \times 5 = 35$  という式の  $\square$  にあてはまる数を考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10・・・と

$\square$  に入れていくと

7 のとき、ちょうど 35 になるよね。

$$\square \times 5 = 35$$

$$5 \times 5 = 35 \quad \times$$

$$6 \times 5 = 35 \quad \times$$

$$7 \times 5 = 35 \quad \circ$$

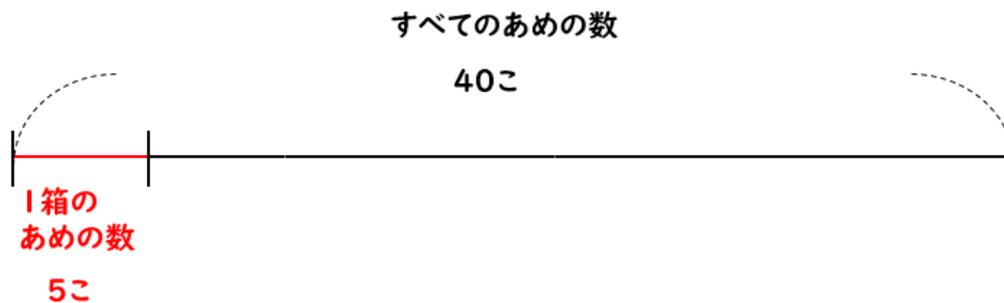
だから、けんくんは 7 才ともとめることができるよ。

1 箱 5 こ入りのあめを、何箱か買ったなら、あめは全部で 40 こになりました。何箱買ったかをもとめましょう。

この問題で「わからない数」は、「買った箱の数」だよ。

だから、「買った箱の数」を「 $\square$ 箱」として式を作るよ。

「1 箱のあめの数 5 こ」を何倍かしたら、「すべてのあめの数 40 こ」になるから



文のとおりにな式を作ると

$$5 \times \square = 40 \text{ という式ができあがるよ。}$$

あとは、 $\square$ に入る数をもとめることができればOKだね。

もとめ方①

図を見ると、

40こを5こずつにわけたらいから

$$40 \div 5 = 8 \text{ 箱だとわかるね。}$$

5 ×  $\square$  = 40 という式から ぎゃくに考えても

40 ÷ 5 をすればいいということがわかるね。

もとめ方②

5 ×  $\square$  = 40 という式の $\square$ にあてはまる数を考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10…と $\square$ に入れていくと、8のとき、ちょうど40になるよね。

$$5 \times \square = 40$$

$$5 \times 6 = 40 \quad \times$$

$$5 \times 7 = 40 \quad \times$$

$$5 \times 8 = 40 \quad \circ$$

だから、箱の数は8箱と求めることができるよ。

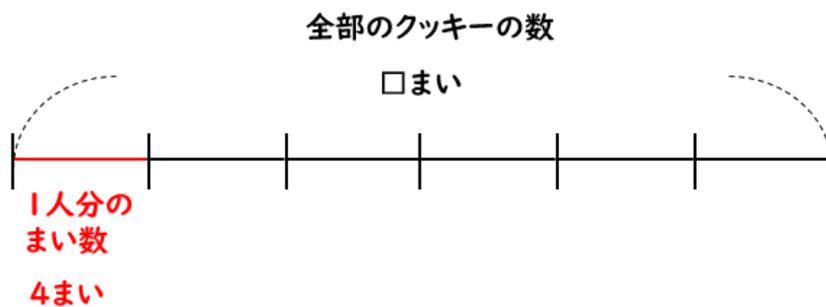


## 「□を使った式」わり算の式をつくる

クッキーが何まいかあります。6人で同じ数ずつわけたところ、1人分は4まいになりました。クッキーは全部で何まいありましたか。

この問題で「わからない数」は、「全部のクッキーのまい数」だよ。だから、「全部のクッキーのまい数」を「□まい」として式を作るよ。

「全部のクッキーのまい数」を6等分したら、「1人分のまい数」になるから



文のとおりには式を作ると

$\square \div 6 = 4$  という式ができあがるよ。

あとは、□に入る数をもとめることができたならOKだね。

もとめ方①

図を見ると、

1人分が4まいで、6人いるから、

全部のまい数は

$4 \times 6 = 24$  まいと求められるよ。



$\square \div 6 = 4$ という式から ぎゃくに考えても  
 $4 \times 6$ をすればいいということがわかるね。

もとめ方②

$\square \div 6 = 4$ という式の $\square$ にあてはまる数を考えていくよ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10…

20、21、22、23、24と

$\square$ に入れていくと

24のとき、ちょうど4になるよね。

$$\square \div 6 = 4$$

$$22 \div 6 = 4 \quad \times$$

$$23 \div 6 = 4 \quad \times$$

$$24 \div 6 = 4 \quad \circ$$

だから、24まいともとめることができるよ。

「 $\square$ を使った式」の文章問題の考え方ややり方のまとめ

「 $\square$ を使った式」の文章問題の考え方ややり方

- ・「わからない数」を $\square$ として、式を作ると、文の通りに式を作ることができる。
- ・ $\square$ を使って式を作れたら、 $\square$ をもとめる。
- ・ $\square$ に入る数をもとめるには、図を使って考えたり、 $\square$ に数字をじゅんばんにあてはめたりすればよい。

